

土佐教育研究会

土佐

No.144 2019.3



高知市立小高坂小学校 1年 ひろまつ ゆきと

《国語部会》

第59回 高知県国語教育研究大会

1. 大会主題 思考力を育てる国語科授業づくり
2. 会場 芸西村立芸西小学校
3. 主催 土佐教育研究会国語部会
4. 大会内容 提案授業，分科会，講演
5. 提案授業

学年・組	授業者	教材名
1年	山崎 充香	「歯がぬけたらどうするの」
4年	宇賀 美保	『ゆめのロボット』を作る」
6年	井上 明	「プロフェッショナルたち」

6. 分科会助言者・司会者・記録者

学年	助言者	司会者	記録者
1年	田中 元康 (高知大学教育学部附属小教諭)	矢田 敦之 (芸西村立芸西小)	片岡 卓哉 (高知市立初月小)
4年	片岡 忠三 (高知市教育委員会 教育アドバイザー)	横山 瞳 (芸西村立芸西小)	清田 尚吾 (高知市立潮江東小)
6年	下村 俊雄 (高知市立朝倉小教諭)	南 澄代 (芸西村立芸西小)	濱田 悠 (高知市立一宮小)

7. 講演

講師 白石 範孝 先生 (明星大学教育学部教育学科常勤教授)
 演題 理論的思考を目指す国語科の問題解決学習

8. 大会を終えて

「思考力を育てる国語科授業づくり」という主題のもと，提案授業と講演を中心とした教育研究大会を開催した。小学校の第1学年，第4学年，第6学年において各1学級が提案授業として公開され，その授業を基に分科会で話し合いを行った。また，講演では，講師としてお招きした明星大学教育学部教育学科常勤教授の白石 範孝先生に「理論的思考を目指す国語科の問題解決学習」という演題のもと，次期学習指導要領改定において示される資質・能力を子どもたちに育むため，指導方法の見直しの視点のお話をいただいた。「用語」「方法」「原理・原則」を習得し活用する力である「知識・技能」を基盤とした，理論的に「考える国語」の授業においては，「原理・原則」を活用し，「用法」を使って考えることで自分の考えをもち，その思考内容を「用語」を活用して表現する姿を目指す。これからの国語教育へのご示唆をいただき，県下から集まった参会者より，「明日からの授業づくりに生かせる有意義な会でした」という声を多数聞くことができ，充実した研究大会になった。

1 期日・会場 平成 30 年 11 月 20 日（火） 高知市立春野東小学校

2 公開授業

(1) 2 年 「文字の形」

この授業では、漢字の外形に気をつけて書くことを目標として学習を行った。まず、文字の形を分類して外形を捉えさせた。これまでに児童は、「だいたい真四角」「縦長」「横長」の 3 種類の外形を学習している。この教材では、「下が広い形」「上が広い形」「中が広い形」を加え計 6 種類の外形を学習した。「森」「百」「子」の文字を練習し、その後、外形をかたどったシートを重ねて、自分が書いた文字の外形が正しいかを確認した。また、友達の書いた文字の外形も確かめ、お互いの良さを認め合うようにした。対話を取り入れて、児童が書かれた文字について気づいたことを伝え合い、より正しく字形を整えた文字を書くことを目指した授業が行われた。

(2) 4 年 「組み立て方 上下の部分（竹笛）」

この授業では、「竹」が「たけかんむり」になると、6 画目の「はね」が「はらい」に変わり、高さが変わるなど、上下の組み立て方の理解を深めさせることを目標として学習を行った。初めに教師が用意したバッドモデルを見せて、上下の部分の大きさの違いや、「たけかんむり」の 6 画目は「はらい」であることを気づかせた。その後、範書映像（DVD）を活用し、筆の穂先の動きや「笛」の上下の組み立て方を捉えさせようとした。

児童は「竹笛」を書いた後、試し書きとまとめ書きを比べ、ペアで良くなったところを見つけ、お互いの良さを見つけ、認め合うようにした。自分の見つけた良くなったところには赤シール、友達が見つけた良くなったところには青シールを貼り良くなったところを視覚的にはっきりさせたことが効果的であった。

3 講演

横浜国立大学教授 青山浩之先生を講師にお迎えして「これからの書写教育～指導のポイントを踏まえて～」の演題で、ご講演をいただいた。学習指導要領の改訂に向けて、社会に出た時に使える学力が目指され、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の追求が行われている。書写学習では、中学校書写までで「効果的に文字を書くこと」が大切であることが話された。「字形を正しく整える能力」「配列などを整える能力」「速く書く能力」「楷書や行書を使い分ける能力」「筆記具などを選択する能力」を小学校から中学校までで身に付け、総合的に書写の能力を発揮させ、場に応じた効果的な文字の書き方ができるよう指導していく必要性について話された。

また、青山先生が実際に毛筆で文字を書かれ、実物投影機で見ることによって、硬筆よりも点画がはっきりと分かった。それにより毛筆で書くことで点画の曖昧さを直していくことの大切さについても触れられた。

青山先生の実技も交えた講演によって、これからの書写教育やその指導のポイントについて、多くのご示唆をいただいた。

第 66 回高知県社会科教育研究大会

1. 研究主題 「人々の営みに学び、社会を切り拓く力を育てる社会科学習」
2. 副 主 題 (中学校)
地理的分野「それぞれの地域の人々の営みに学び、社会を切り拓く力を育てる社会科学習」
歴史的分野「時代を支え、動かしてきた人々の営みに学び、社会を切り拓く力を育てる社会科学習」
公民的分野「新しい時代を生きる人々の営みに学び、社会を切り拓く力を育てる社会科学習」
3. 期 日 平成30年11月20日(火)
4. 会 場 (小学校部会・全体会場) 高知市立朝倉第二小学校
(中学校部会) 高知市立朝倉中学校
5. 公開授業・分科会の協議内容
 - (1) 小学第3学年 「見つけよう わたしたちの暮らし」
 - ・地域教材を取り上げ、地域の魅力や素晴らしさを子どもたち発見し、地域に愛着が出てきたことが良かった。
 - ・共通点と相違点を色で区別してあげたらよかった。
 - ・授業に深まりを出すためにどこに視点をおいて落とし込んでいくかが大切である。
 - (2) 小学第5学年 「暮らしを支える情報」
 - ・振り返りの中で、既習事項の「テレビ」との比較が子どもの中から出たのが良かった。
 - ・教科書にないものを取り扱ったチャレンジであった。「防災」と「情報」は切り離せないものである。本時で、子どもから「ラジオ放送は命を守る。」という言葉が出たので、本時のねらいや指導者の思いが子どもに伝わったと感じる。
 - (3) 中学第1学年 「戦国時代の土佐について」
 - ・意見の相違が見られ、より活発な話し合いが行われていた。
 - ・「主体的に学ぶ」＝動機付けが必要 子どもの「知りたい」という思い。過去を知って何になるのかという声も子どもたちからあるので、今の生活に落としてみて考えさせることが大事である。
 - ・資料から比較し、共通点や相違点を見つける活動から新しい価値観に出会い、ここから、「当時はまとまりがなかったんだな」、「クラスのまとまりがない時の様子」(今)につなげるという活動つながっていくのが大切である。
 - (4) 中学第3学年 「生産と消費をつなぐもの」
 - ・事前のアンケート結果を授業の展開にいかすことで、「自分たちの意見で授業が組み立てられている」という思いが意欲につながっていた。
 - ・「オンラインショッピング」という言葉にとらわれすぎたことで、ICT全体の活用はまだ生徒の考えがいたらなかったと感じる。
6. 記念講演 演題 「新しい学習指導要領と社会科 ～これからの社会科学習～」
講師 宮 英司 先生 (高知大学教育学部 非常勤講師)
新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」に向かうには、子どもの主体性を育て発問が大事で、カリキュラムマネジメントの力が問われる。これからも「人権を大切にし、平和を守る」教科として実践を重ねる必要がある。県社研として、2012年の大会の成果を受け継いでいく必要がある。新たな地域教材の発掘と子どもの成長した姿を発信してほしい。先生からは、2020年度の全中社や四小社を控え、貴重な示唆をいただいた。

平成30年度 高知県算数数学教育研究（室戸市）大会

1. 研究主題 「創造的に活動し、創造的に表現する子どもの育成を目指して」
2. 期 日 平成30年11月14日（水）
3. 会 場 小学校部会・全体会・・・室戸市立室戸小学校 中学校部会・・・室戸市立室戸中学校

4. 討議内容

【小学校】

○第1学年「ひきざん」

本時は、繰り下がりのあるひき算をし、減法のきまりを広げていく授業内容であった。研究協議では減法に関して成り立つ性質を生かして、より良く問題を解決する活動になっていたかを検討した。一単元のみで授業をつくらずに、見方・考え方を成長させるという視点で教材分析をすることの大切さや、算数トライアングル（図や絵やブロック・式や数字・言葉や文）を用いて思考することを日ごろの授業で大事にしていく必要性を再確認できた。

○第6学年「並べ方と組み合わせ方」

ねらいにそった授業がなされており、子どもたちもしっかりと考えた1時間であったことが発言や態度、ノートからうかがえ、すばらしい授業であった。その後の協議では、「まとめにおいて、指導者が期待していた答えが、児童から出なかったのはなぜか」、また、「どうすれば、数を順に固定すれば見つけやすい」という考えが出たのかという点にしぼり、グループに分かれて協議を行った。また、出された課題から改善策を考えることができ有意義な協議になった。

【中学校】

○第2学年「平行と合同」

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業内容であった。教材を解く面白さや発展問題を考えていくことについて協議がなされた。新学習指導要領に則して、本時の指導がどうであったかを各参加者が意見交換し、生徒が問題を解く姿を評価し、教師側のメッセージを伝えていく必要性を感じた。既習事項を活用し、見出す力をもつとつけていき、見方・考え方をさらに高めていかなければならないことを確認することができた。

5. 講演

講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程教科調査官 笠井 健一 先生

演題 「新学習指導要領が期待する授業とは ～数学的に考える資質・能力を育成する授業の在り方～」

6. 大会を終えて

本年度、会場校をお願いした室戸小学校は、教育課程拠点校として長年にわたり算数科を中心とした授業研究を重ねてきており、大会当日も「学び合いを軸にした授業づくり」を提案していただいた。また、室戸中学校でも生徒主体の授業づくりについて学ばせていただいた。

全体会では、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官の笠井健一先生に「新学習指導要領が期待する授業とは～数学的に考える資質・能力を育成する授業の在り方～」という演題で講演をいただいた。参加者全員で考え体験的に学ぶ形式を取り入れていただいたことで、一人一人が子どもの立場に立った授業づくりの視点について考えることができた。これから新学習指導要領や対話的で深い学びの実現に向けて、自分たちがどうしていかなければならないかを考える良い機会になった。

また、自ら学ぶ力や課題解決能力、共に学ぶ力等の「生きる力」を育むよう、算数・数学科として「思考力・表現力の向上」のために、教材研究や授業研究、学習指導方法の改善など、教育活動の充実と改善をさらに進めていかなければならないことを互いに確認し合うことができた。

《理科部会》

【小学校】

第66回 高知県理科教育研究大会 高知大会

1. 大会主題 自然に親しみ、科学的に解決する力を育てる理科教育
2. 会場 南国市立大篠小学校
3. 講演 海洋コア総合研究センターについて
講師 海洋コア総合研究センター センター長 徳山 英一（中学校と合同）
4. 提案授業

学年	授業者	単元名
4年	高橋弓香子（大篠小）	ものあたたまり方
6年	井上 衣抄子（大篠小）	水よう液の性質

5. 支部提案

学年	支部	提案者（所属）	発表題目
3年	高岡	安井正仁 （佐川町立黒井小）	自然に親しみ、科学的に解決する力を育てる理科教育—「ゴムのはたらき」の実践を通して—
4年	幡多	葛西祐介 （大月町立大月小）	UDと学習リーダーの活用を通して、深め合う理科の指導方法の研究—「とじこめた空気と水」の実践から—
	高知	筒井俊介 （高知市立神田小）	児童が主体的に問題解決に取り組む理科授業の工夫—「ものの温度と体積」の実践を通して—
5年	吾川	坂本桂子 （いの町立伊野小）	科学的に解決する力を育てる理科授業を目指して—「流れる水のはたらき」の学習を通して—
6年	香美 香南	森澤充芳（江南市立 夜須小）	関わり合い・学び合いの中で育てる思考力

7. 参加者 高知県内より 49名参加

【中学校】

第66回 高知県理科教育研究大会 大会

1. 大会主題 自然に関わり、科学的に解決する力を育てる理科教育
2. 会場 南国市立香長中学校
3. 講演 海洋コア総合研究センターについて
講師 海洋コア総合研究センター センター長 徳山 英一（小学校と合同）
3. 提案授業

学年	授業者	単元名
2年	春日 裕之（香長中）	化学変化と原子・分子

4. 領域別支部提案

領域	支部	提案者（所属）	発表題目
学習指導	香美 香南	木下 真紀 （香南市立野市中学校）	生徒の思考を促し、自発的な学習を生み出す授業づくり
環境教育	幡多	大橋 更三 （東中筋中学校）	環境教育—四万十ツルの里づくり事業を通して—

5. 参加者 高知県内より 36名参加

第25回高知県生活科・総合的な学習教育研究大会県大会

1. 大会主題 新たな時代を切り拓く子ども～ふるさとの未来を創造する～
2. 会場 四万十市立具同小学校
3. 主催 土佐教育研究会生活・総合的な学習部会
4. 大会内容 公開授業，パネルディスカッション，講演
5. 公開授業

学年	授業者	単元名	
2年	速渡 恵理 教諭	生活	具同の町探検隊
5年	泥谷 真里 教諭	総合	四万十農法米～具同小プロジェクト～

6. パネルディスカッション・講演
 講師 石堂 裕先生（兵庫県たつの市立新宮小学校主幹教諭）
 演題 「新学習指導要領で求められる探究的な授業づくりのポイント」

パネルディスカッションでは、大きく以下の4点について話された。

- ①本時のねらいと実際の子どもの思考について
 - ・思考ツールを使うことで子どもが自分の考えを整理することができていた。また可視化されたことによって、情報を比べることができていた。
 - ・約15秒自分の考えをしっかりと表現する子どもの姿が見られた。
- ②子どもの思いや願いが単元にどう反映されているか
 - ・子どもの学びの履歴を可視化することで、子どもが自らの学びを振り返りながら新たな疑問や課題を生み出すことができる。
 - ・学級づくりや仲間づくりを工夫するとともに授業で学級経営をする。
- ③個々の根拠に体験がどう生かされているか
 - ・人と出会わせたり困難に出合わせたりする中で、子どもに豊かな体験をさせる。
 - ・その体験をもとに考えたり表現したりする子どもを教師がしっかりと評価する。
- ④新学習指導要領の三つの柱について
 - ・他教科とのつながりや他学年とのつながりを意識して指導すること

講演では、講師の先生の実践を紹介していただく中で、探究的な授業づくりのポイントを話していただいた。

- ・板書が子どもの思考の助けになるようにする。
 知識→黄色で書く 重要事項→赤で書く 思考の流れは矢印を用いて表現する
- ・前時で使った技を板書しておく 等
- ・子どもがもっている知識ともっていない知識を教師が理解し、授業づくりに生かす。
- ・必ず振り返りをする。見通しと振り返りを大切にする。
- ・ネットワーク・フットワーク・チームワークが重要である。
- ・分かる→できる→用いるというサイクルを繰り返すこと。

7. 大会を終えて

今年も素晴らしい実践と大変勉強になる講演で、参加者の先生からは好評をいただくことができた。毎年のことであるが、参加者数については多いとは言えないので、より多くの先生に参加していただけるように大会のあり方や呼びかけの方法を考えなければならぬと感じた。

《音楽部会》

第65回 高知県音楽教育研究大会（高知市大会）

- 1 大会主題 「かかわる つながる ひびきあう」
- 2 期日日程 平成30年11月30日（金）午前校種別公開授業 午後全体会
- 3 会場 〈 授業会場 〉 高知市立潮江小学校（2クラス）
高知市立一宮中学校（2クラス）
高知県立高知南高等学校（1クラス）
〈 全体会場 〉 高知県立美術館ホール 研究演奏 記念講演
- 4 研究の概要及び成果と課題
 - 小学校部会 高知市立横浜新町小学校 5年生 授業者 刈谷 佳菜
「沖縄民謡風の音楽をつくろう」
高知市立潮江南小学校 6年生 授業者 細川 菜奈恵
「歌詞や曲想に合った表現の仕方を工夫して歌おう」
 - 中学校部会 高知市立西部中学校 1年生 授業者 谷口 晴香
「日本民謡に親しもう」
高知市立青柳中学校 3年生 授業者 植田 歩依
「クラスソングをつくろう」
 - 高等学校部会 高知県立高知南高等学校 1年生 授業者 久保田 志乃
「リズム・アンサンブルを楽しもう」
- 研究演奏 幼稚園部会 器楽合奏 くるみ幼稚園
特別支援部会 合唱 高知市特別支援学級連合
小学校部会 合唱 高知大学教育学部附属小学校合唱部
中学校部会 吹奏楽 高知市中学校連合吹奏楽団
高等学校部会 マーチング 高知高等学校吹奏楽部
- 5 記念講演 松井 孝夫先生 「協働して とともに歩む音楽教育」
- 6 成果と課題

高知市支部の方をはじめ、県下から約100人の参加者が集まり開催できた。小学校、中学校、高校と各校種の授業やいろいろな演奏、発表にふれる唯一の機会が県大会である。今後支部の交流の場として、各校種の交流の場として発展できるよう運営等よりよい方向を考えていきたい。また、この大会から一日開催に戻りよりよい研修ができることができた。

部会別の授業に関して、それぞれがグループを作り、授業づくりや指導案検討が熱心におこなわれ、当日を迎えることとなった。研究演奏でも部会それぞれが協力し、合同の練習会を持ったことで他校の生徒や教員との交流も深めることができたように思われる。

記念講演では、松井 孝夫先生の音楽教育への考え方やご自身が作られた合唱曲を参加者がステージ上で先生の指導の元、合唱し学習することができた。

県大会を開催するに当たり、各校種での研究授業の取り組み方や研究体制が改めて高知市の音楽に関わる教員の確認ができたように思われる。3年後には、「中四国音楽教育研究大会」を本県で開催することが決まっているので、再確認することや、取り組みの準備をすることができて非常によかったと思われる。

次年度は土長南国で県大会が開催されるが、高知市も協力し高知県の音楽教育の発展や教員の連携にも取り組んでいきたいと確認された。

土佐教育研究会造形教育研究部会

第58回高知県造形教育研究大会報告

大会主題 「一人ひとりの豊かな感性と創造力を育てる造形教育」

公開授業 表現「マンガ表現の自画像を描こう

～自分のイメージを伝える名刺をつくろう～」

授業者 門田武（安芸市立清水ヶ丘中学校）

【研究協議】

・授業者より

2・3年生の教科書に出てくる「マンガ表現」を活用した学習を4時間の計画で行った。2年生は、1学期から友達をモデルにして人物画の制作に取り組んだ。その中で、顔を描くときに目や鼻、口などの配置に苦勞している生徒が多くいた。そのため描写が苦手な生徒でも、単純化したマンガの表現であれば制作に取り組めると考えた。また、強調して表すことができるので、基本的な形から発展させているような表現ができるというのも題材設定の理由である。

マンガは、いろいろな可能性がある題材だと考えている。授業の中では、表現がいろいろできるだけに、単純な形で表現して早くできる生徒が退屈しないようにする発展課題をどうするかが課題となっている。

・協議内容

「最終ゴールイメージは名刺の作成になるのか。」「この後、色をつけるか。輪郭線を美しく描くのにこだわっている生徒もいた。」「名刺に持っていくことへの葛藤はないだろうか。」などの質問に対して、授業者より「具体的に使う場面を示した方がよいと思い、職場体験学習で挨拶に行くときの名刺に入れるための自画像の制作を考えている。色をつけるかどうかは、生徒に選択させる。感情でこだわったのは、名刺にふさわしい表情を考えさせたかったからである。将来的には、名刺をつくるから発展して、委員会活動でポスターをつくったり、篆刻の授業でアイデアを考えたりするときに、マンガで自画像を描いたこと、感情を描き分けたことが生かせればと考えている。」との答えがあった。

その他、早く制作が進んだ生徒への手立てや授業の振り返り、まとめについての意見交換ができた。

・助言者より（中野富美子 高知県造形教育研究会顧問）

授業者の人柄が良く、授業の雰囲気につながっている。導入が長かった。もっと短くてよい。自分の顔を取り上げるのはよいと思う。授業者が黒板に思いきってマンガ表現の顔を描くことで笑いを取り、「ちょっと人に笑われてもいいじゃん」という雰囲気をつくるなどすれば良かったと思う。

マンガは優れた教材だと思う。ツールとしていい特徴がある。歴史があり、現代のものだけでなく、鳥獣戯画や北斎漫画などを導入で取り入れてもいいと思う。

早くできる子どもに対しては、振り返りなどに発展項目として写真などを使って別の顔をマンガで描くなどなどすればよいと思う。

小学校家庭科部会

1. 研究大会

(1) 大会主題 「自分の思いやよさを生かし、よりよい生活を創り出すこどもをめざして」

(2) 期日 平成31年2月14日(木)

(3) 会場 土佐市立蓮池小学校

(4) 研究授業

今年の県大会は、高知県立消費生活センターと連携を組み、小学校における消費者教育の副教材作成研究の一環として、土佐市立蓮池小学校の坂本加奈子教諭と久武桂津代教諭「めざそう 買い物名人」の授業をおこなっていただいた。

授業は、「契約について考えよう」とめあてを掲示し、契約をしたことがあるか問いかけることから始まる。始めは自分に縁のない出来事だと捉えていたが、実は契約は法律で守られており、普段している買い物は売買契約に当たることが分かると驚きの表情を見せていた。では、どこで売買契約が成立するのか考えると、「レシートを貰う」場面を予想した子どもが多かったが、実は「売りたい」という店側の気持ちと「買いたい」という消費者の気持ち都合した時に成立することが分かると、「やっぱりそうだったんだ」といった声が上がっていた。次に、「契約がレジで「商品を買う」場面なら、レシートはいらないんじゃない？」と揺さぶりをかけ、レシートの必要性について考えさせた。子どもは必要そうだと思っているものの、実際は捨てたり受け取らなかつたりしていることが多い。そこで、どうして必要だと思うのか、レシートに書かれている契約に必要な内容は何かを話し合った。授業の振り返りでは、「責任をもって買いたい」「買う前に家にあるか確認したい」「レシートは捨てていただけこれからは見直していきたい」といった子どもの変容が見られた。

(5) 研究協議

この授業は、消費者教育の副教材作成研究の一環としておこなったので、討議の柱を「高知県下のどの小学生も生き生きと主体的に活動できる教材であるか」とした。

参会者からは、「子どもにとって身近なもので、自分の立場を明確にできる場面もあってよかった」「消費者手帳があると学習の足跡が残りよかった」といったことが出された。また今回は、T・Tの形をとっていたが、実際は1人で授業することが多いので、ロールプレイは難しくなる。その代わりにパワーポイントを使って示したらどうだろうといった意見や契約成立の場面は厳密にいうと商品をレジに出した時ではないか。子どもからの発見がなかったので、レシートに書かれてあるものから、何のために書いているのかを考えさせてもよかったのでは。といった改善策もいただいた。これを受けて、小学校家庭科部では消費者教育の副教材作成に向けて研究を続けていきたいと考える。

(6) 講演

今回、講師として高知大学教育学部教授の小島郷子先生をお招きし、「小学校における消費者教育について」と題して講演をしていただいた。昔は消費者として守られる存在であったが、現代では、自主的にかつ合理的に活動することが求められており、自立すべき存在として位置付けられていること。そのために支援をすることが消費者教育になることを法律と関連させながらご講話いただいた。そして、教科を横断し、連携をしながら、生活の中でいろんな視点を入れて消費者教育をおこなっていく必要があるということをご教授いただいた。

第57回高知県中学校技術・家庭科研究大会の報告

一 大会開催要項 一

1. 主催 土佐教育研究会中学校技術・家庭科部会
2. 後援 高知県教育委員会 高知縣市町村教育委員会連合会
3. 期日 平成31年1月16日(水)
4. 会場 高知市立愛宕中学校
〒780-0047 高知市相模町1-54 TEL 088-822-5295
5. 研究主題 「主体的な学びとなる授業を展開し、技術や生活の営みをよりよくする見方考え方ができる生徒の育成」
6. 日程

14:35～14:45	14:45～15:00	15:00～15:50	15:50～16:20	16:20～16:35	16:40～17:00	17:00～17:15
受付	開会行事	公開授業	研究協議	指導助言	(技)研究発表 (家)講演	閉会行事

7. 公開授業・研究発表

授業者	内容
高知市立愛宕中学校 教諭 入野 要 先生	A 材料と加工に関する技術
高知市立愛宕中学校 教諭 大久保 早紀 先生	B 衣食住の生活
研究発表	内容
中土佐町立久礼中学校 教諭 久保 智誠 先生	A 材料と加工に関する技術

8. 指導助言・講演

高知県教育センターチーフ 別役 千世 (家庭分野) 講演 「新学習指導要領の概要」
高知県教育センター指導主事 多田 哲也 (技術分野講演)

一 成果と課題 一

本大会は高知市教育研究会との同時開催となりました。開催には両分野の先生のご尽力がありました。教員の減少によりお二人には公開授業にあたり多大なご負担をかけての開催となりましたが、お二人のご尽力あって充実した会にすることができました。また、今年度の中四国大会(香川大会)での発表内容を久礼中学校 久保先生に再度発表もしていただいたことで香川大会に参加できなかった先生方にも発表を聞いていただけ、研究主題を具現化したものを共有したことは大きな成果となりました。昨年からは多田指導主事の継続的なご指導を受け、本大会に積極的に関わっていただき、新学習指導要領の要点を聞いたことで新たな研究主題を推進していくうえでの参考にもなりました。いつも課題となる参加者や開催場所は高知市教育研究会との同時開催ということでご負担はかけましたが多くの先生方に参加いただける機会にもなりました。

技術分野での研究協議では小グループを使ってテーマをしばった研究協議を行いました。そこで、新指導要領での柱である主体的で対話的な学びを生徒だけでなく教師も体験することで新たな視点を持つことをねらいとしました。参加された先生方には、多様なアイデアを出し合い情報を共有する良い機会となりました。

今後は、新学習指導要領の内容理解から授業展開をする方法や、指導案・ワークシート・評価規準の設定などの研究を深めることが課題となります。

終わりになりましたが、本会の開催にあたり愛宕中学校の武田校長先生をはじめ教職員の皆様のご協力に感謝いたしますとともに、ご指導・ご支援いただきました関係各位に対しましてお礼を申し上げます。

小学校体育部会

『第32回高知県小学校体育研究大会』

1. 研究主題

運動好きな子どもを育てる体育学習の創造
～「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を見つめる～

2. 日時・会場等 平成30年12月11日(火) 四万十市立具同小学校

3. 教材名 『タグラグビー』

4. 授業者 濱口 健斗 (四万十市立具同小学校 教諭)

5. 講師 山岡 誠 (高知県教育委員会保健体育課 指導主事)

6. 概要

○授業及び事後研

本年度、ゴール型ゲーム(陣取り型)に取り組む中で「主体的・対話的で深い学び」へとつながる学習展開や場の工夫を各支部で研究した。幡多支部では、特に運動が苦手な児童でも高度な技能を要求されない「タグラグビー」を選び、教師主導ではなく、児童が意欲的に学習に取り組むよう授業作りを行った。

授業では、天候不良により体育館での授業となり、普段より狭いコートで行った。そのため、児童同士の距離が近くなりパスはよくつながっていた。しかし、守備者を抜き去ったり走り抜けたりするプレーが少なくタグラグビー本来の楽しさを味わう場面があまり見られなかったことは残念であった。

学級の雰囲気非常によく、チームの中で声を掛け合いながら活動する姿が多く見られた。また、作戦タイムや授業の振り返りでもそれぞれのチームでよく意見を出し、話し合いが活発に行われていたことがよかった。

授業後の話し合いでは、小グループに分かれて意見交換を行い、全体で共有した。活発な議論が行われ、次へつながる多くの課題も出された。その中で、タグラグビーの特性に対する認識が甘く、児童がその楽しさに十分触れることができなかったため、どの單元においても運動の特性を明確にし、指導者が教材についての研究をもっとしておく必要があるとの意見が多かった。

また、児童がタグを取られないようにプレーしていたので、勢いよくゴールに向かってランプレーを選択することが少なかった。タグラグビーはタグを取られてからパスを行うことができるので、始めの授業からタグを取られるまでパスをしないなどの言葉がけを行い、意識付けていけばもっとダイナミックなプレーも生まれたのではないかという意見も出された。

タグラグビーは、技能が易しく誰でも活躍できる可能性が高い。また、作戦を立てやすく話し合いを行う時間も短くできるため、児童が自然と会話しながら活動でき、「主体的・対話的で深い学び」へとつながるよい教材であると感じた。

全体を通して、最後まで児童が友達とかかわりながら運動を続けており、教師と児童の関係も良好でよい雰囲気で活動していた授業であった。

土佐教育研究会 外国語・外国語活動部会

1. 研究テーマ

「グローバル化に対応した新たな英語教育を目指して」
平成32年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるために、今、英語教育全体が大きく変わろうとしている。そこで、国の施策に取り上げられている主題のもと、今年度も小中高を通じて一貫した学習到達目標を設定した授業実践をテーマとして取り上げ、今後の英語教育のあるべき姿を追究していきたいと考え設定した。

2. 高知県英語教育研究大会

(1) 提案授業 H29年度土佐山学舎9年生の授業(DVD授業検証)

提案者：現高知市立大津小学校 森佳奈子 教諭

コーディネータ：高知県教育委員会 小中学校課指導主事 伊芸 美紀 氏

身近なことから社会的なことまで様々な話題についてセマンティック・マッピングをして仲間と意見交換・質疑応答・ライティングと積み重ねられた授業の成果発表であった。班で意見交換・質疑応答そして学級全体で代表の生徒が意見を述べ、それについて感想や質疑応答をしていたが、生徒はすべて英語で行っていた。どの生徒もしっかりと自分の意見を持ち、ユーモアを交えて英語で討議する姿は圧巻であった。

(2) 分科会

① 中学校 「4技能を統合したABCDフォーマットを活用した授業づくり」
高知市教育研究所指導主事 西 美智子 氏

② 高 校 「推進リーダーによる、授業に則したワークショップ」
岡林智子 教諭（県立高知小津高校）
村田恵子 教諭（県立高知小津高校）
山崎功子 教諭（県立高知南高校）

③ 小学校 「大宮小学校での取り組み」
加藤 かや 教諭（香美市立大宮小学校）

(3) 授業研究 発表者：千谷 志保 教諭（高知県立宿毛高等学校）

助言者：高知工科大学教授 長崎政浩 氏

(4) 講演 「Experiential English: Learn English by Using It」 Ms. Helene Uchida (Teaching English Methods Institute)

内田ヘリーン先生は外国人として日本に民間の英語教室を開かれた先駆者であり、大人から子どもまでの英語教育に携わっている。英語は使うことを通してしか学べないという確固たる信念のもと、役に立つ言語活動を実際に参加者が体験するワークショップ形式でご披露してくださり、たいへん好評であった。

- 1 研究主題 「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の展開」
～ 自らを見つめ生き方を深く考える道徳科を要として ～

2 期日・会場・内容

	期 日	会 場	内 容
1日目	平成30年12月 2日(日)	南国市立岡豊小学校	公開授業・授業分科会・講演
2日目	平成30年12月26日(水)	高知会館 2階白鳳	実践発表・パネルディスカッション・講演

3 公開授業（提案授業）（1日目）

学級	授業者	教材（出典）	内容項目
1年生	中田 百香	「はちさんのバッジ」（学研）	B-(7) 感謝
3年生	大西 由夏	「ひきがえるとロバ」（学研）	D-(18) 生命尊重
6年1組	井上 一志	「会話のゆくえ」（学研）	A-(1) 善悪の判断
6年2組	松岡 紗希	「会話のゆくえ」（学研）	自立、自由と責任

4 実践発表（2日目）

校 種	学 校 名	指導・助言
小学校	高知市立一ツ橋小学校	入江 洋 指導主事 高知市学校教育課
中学校	中土佐町立大野見中学校	弘瀬 佐和 指導主事 中部教育事務所

5 パネルディスカッション（2日目）

テーマ	「道徳の時間」から「道徳科」へ	
コーディネーター	高知大学	森 有希 准教授
助言者	京都産業大学	柴原 弘志 教授
パネラー①	南国市立岡豊小学校	山本 由美 教諭
パネラー②	高知市立一宮中学校	井上 美智子 教諭
パネラー③	高知市立城西中学校	中内 佐穂 教諭

6 講演（2日目）

講師 日本道徳教育学会名誉会長 横山 利弘 先生
演題 「主体的・対話的で深い学び」を道徳科でどう実現するか

7 成果と課題

道徳科元年に、道徳の時間から道徳科へ、変わることを研修する機会がもてたことは有意義であった。参加者のニーズには、授業から学びたいという思いが強くある。公開授業を次年度以降、どのような形（時期・内容）にしていくか要検討である。

第50回 高知県特別活動研究大会

1 研究主題

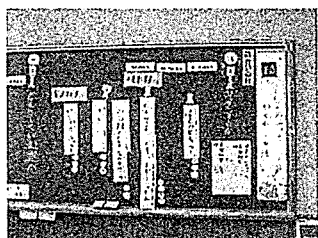
「よりよい人間関係や豊かな生活を築く特別活動の創造」

2 日時 会場 平成30年10月12日(金) 南国市立長岡小学校

3 内容

(1) 公開授業

学級活動内容(1)話合い活動 5年1組 村岡和香 教諭
議題「みんなが楽しくなるようなハロウィンパーティーをしよう」



(2) 実践発表

① 長岡小学校の取り組み

・特別活動の実践の充実 ・学級活動とリンクした授業づくり

② 高知市の取り組み

「主体的に学びあう児童の育成～学級活動の種をまくために～」

発表者 高知市立旭東小学校 坂本美香 教諭

4 授業をめぐる話し合い

〈授業者より〉

- ・緊張する子ども達が多いが、達成感いっぱい自己評価も高かった。
- ・決まっていることがあり、枠の中での話し合いが難しかった。
- ・今日で終わりではなく、次の活動へとつなげたい。

〈グループ協議より〉

- ・司会グループ、掲示物など、学校全体で取り組んでいることがよく分かる。今日までの積み重ねが素晴らしい。
- ・多数決で同票になったとき、提案理由に立ち戻ると良かった。
- ・意見を合体させるとき、ふさわしくないものもあるので、理由を言えるようにするとみんなが納得できる。

〈助言者 いの町立長沢小学校 和田明教頭先生より〉

- ・学級会は、「こういうふうになりたい」と子ども達が考えていく文化。
- ・子どもがみんな前向きで先生の肯定的な声かけによるものである。
- ・子どもがお互いの心の内面をくんで意見を出し合っているのは、他教科の学力向上にもつながっていく。

図 書 館 部 会

「平成30年度高知県学校図書館教育研究大会」について

「多様な読書活動を通し、自ら学ぶ力を育てる学校図書館」を研究主題に、11月29日（木）オーテピア高知図書館の4階ホール・研修室・集会室を会場にして、本年度の学校図書館教育大会を開催した。

1 分科会

「情報センターとしての学校図書館」「読書センターとしての学校図書館」「地域や家庭と連携する学校図書館」「学習センターとしての学校図書館」「特別な教育的ニーズをもつ児童・生徒を支える学校図書館」「学校図書館の現状と課題」というテーマをもとに、六つの分科会で実践発表がなされ、これからの学校図書館のあるべき姿や方向性が確認できた。例えば「情報センターとしての学校図書館」では、学校図書館が「情報センター」としての機能をよりしっかり持つことで、児童が情報活用能力を身につけ、その力を問題解決型や探究型の学習において活用し、主体的に学習に取り組めるのではないかということや「特別な教育的ニーズをもつ児童・生徒を支える学校図書館」では、一人ひとりの子どもに対応した配慮、読みにくさの解消や軽減のために何ができるのかなどについて活発な討論が展開された。

2 記念講演「この本をかくして～アメリカの詩人が図書館の意味と日本のこれからを語る～」

講師 アーサー・ビナード さん

参加者の「詩人のアーサー・ビナードさんの記念講演はとても楽しく、面白いお話だった。文化の違いが物の見方の違いにつながるということやその物の見方の違いによるところから生まれるのだと思った。また、今まで考えていた図書館というものが、今日のお話で随分変わったように思う。アーサーさんの生い立ちから始まり、詩人としての熱い思いを語る姿に惹き付けられた。外国人から見た日本語と日本の歴史の話の中にも新鮮な発見があった。教師として子どもたちに何を教えていくことが大切なのかを考えさせられる言葉もあり、自分を振り返ることもできた。改めて、図書館の意味や絵本の面白さを感じることができた」等の感想からもわかるように、講師による『この本をかくして』の絵本の読み聞かせや、詩人としての熱い語りに参加者全員が惹き付けられた内容の濃い講演となった。

3 成果と課題

今年度は「多様な読書活動を通し、自ら学ぶ力を育てる学校図書館」を研究主題とした学校図書館を活用した実践報告であった。分科会ではそれぞれのテーマをもとにした実践のレポートを発表し研究協議を行った。「学校図書館を見直すきっかけとった」「知りたいことがすぐに見つかる学校図書館にしていきたい」との感想があり大変有意義な研究大会となった。今、子どもたちに何が必要なのかを考え、学校図書館を活用した授業の在り方や資料の収集など、研究を重ねていきたい。

《視聴覚部会》

平成 30 年度 高知県放送・視聴覚教育夏季特別研修会

1. 研究主題

「新しい時代を生き抜くため、豊かな心と自ら学ぶ力を育てる
放送・視聴覚教育の果たす役割を推し進めよう。」

2. 期 日 平成 30 年 8 月 20 日 (月)

3. 場 所 高知丸の内高等学校 多目的室

4. 内 容 ①幼, 小, 中, 高の実践発表 (放送番組や ICT 活用)

	実践発表	指導助言
幼稚園	山岡 美智瑠 (杉の子せと幼稚園) 3 歳児の 1 年間の視聴を通して【番組名：ピタゴラスイッチ】	鍋島 享子 (前伊野幼稚園長)
小学校	渡辺 敏行 (田野小学校) 単元を通して活用する放送番組とタブレット型 PC ～国語科「物語を作ろう」の実践を通して～【番組名：読み書きのツボ】	山本 健吉 (寺田虎彦記念館)
中学校	高橋 啓史 (城西中) 「放送番組を利用したの道徳教育の実践」【番組名：ココロ部】	宮 英司 (一宮幼稚園長)
高等学校	藤原 公房 (高知丸の内高等学校) 放送メディアを活用したアクティブ・ラーニングの実践 【番組名：高校生講座】	小島 一久 (高知学園短期大学 長)

②全体助言

助言者：中野 信子 (NHK 青少年・教育番組部チーフプロデューサー)

内 容：放送番組を活用した授業づくりへの助言と NHK for School 関係紹介

5. 参加者数 20 名

平成 30 年度 高知県放送・視聴覚教育研究大会

・テーマ

新しい時代を生き抜くため、豊かな心と自ら学ぶ力を育てる放送・視聴覚教育の果たす役割
を推し進めよう

・【中学校】

期 日 平成 30 年 11 月 20 日 (火) 13:15～16:00 会場：高知市立一宮中学校

内 容 公開授業・研究協議「身近な物理現象」

授業者：2 年 鈴木 達也 (一宮中)

・【小学校】

期 日 平成 30 年 11 月 21 日 (水) 14:20～17:00 会場：香美市立山田小学校

内 容 公開授業・研究協議「はたらく犬について調べよう」

授業者：3 年 林 亮 (山田小)

講演会 演題「ICT を活用した授業改善～グループで指導案作り～」

講師 NHK 青少年教育番組部デスク 貫井真史

第53回高知県進路指導研究大会

- 1 研究主題 : 「キャリア教育と中学校の進路指導」
- 2 日 時 : 平成31年2月5日(火) 13:15~15:35
- 3 場 所 : 香南市立夜須中学校
- 4 講 話 : 「バレーボールとともに」 講師 山崎 望

講話の概要

感音性難聴障害で小さい頃から言葉を聞き取ることが難しかったが、他の子どもと一緒に学校生活をおくり、小6から始めたバレーボールで力を発揮して実業団で活躍し、ケガやスランプを乗り越えてデフリンピックで金メダルを獲得した山崎さんから、バレーボールとの関わりの中でどのように生きてきたか、夢をあきらめずに努力してきたことなどをエピソードを交えながらお話しいただいた。

「『不可能』は『可能』に変えられる。」「楽な道としんどい道があったら、しんどい道を選ぶ。」「障害は友達の支えがあって乗り越えられた」など生徒たちの心に響くメッセージをたくさんいただき、「山崎さんのように努力を重ねて本当の楽しさを感じたい」「できると思っただけで諦めずに挑戦したい」「コツコツ壁を乗り越える生き方をしたい」「仲間がいることに感謝したい」など、生徒たちも自分をみつめ、夢や目標に向かって努力する生き方や今の自分のあり方を考えることができていた。

5 パネルディスカッション

パネリスト 仙頭 穂さん(保育所勤務 夜須中OG)
野島 貴美子さん(農業従事者)
栗真 拓さん(夜須町内勤務)

ファシリテーター 永野校長

テーマ「私の生きる道」

概要について

「私の生きる道」をテーマに、3人のパネリストが「今の仕事を選んだ理由やきっかけ」「夜須町(香南市)で働く理由」「仕事への思いややりがい」「今後の夢や展望」などを語り合った。

「失敗を繰り返しても自分の好きなことを見つけて大切にすること」「一生懸命やると見えてくるものがある」「夢を探す努力をすること」「同じ夢を持つ仲間の存在」「小中学校の学習は大人になってからも必要になること」など、心に響くメッセージが語られた。生き生きと自分の仕事や生き方を語る3人の話は大変興味深く、将来のことや今の自分など、何を大事に生きるのかを考える有意義な時間となった。

途中、パネリストの方から生徒への質問もあり、生徒が自分の夢を語ったり、参観者から質問も出されたり、参加者みんなで学習を深めることができた。

大会参加者は、例年より少なく約28名だった。進路学習の一環であり、講師として職業人を講師として講演をしていただくことは以前から行っていたが、パネルディスカッションの形態も今後一つの手段として紹介していきたい。

平成30年度高知県へき地・複式・小規模校教育研究大会

- 1 主題 「自ら考え 伝え合い 学び合う 子どもの育成」
～学習リーダーを中心とする授業づくり～
- 2 日時 平成30年10月19日（金）13：40～17：00
- 3 会場 いの町立吾北小学校
- 4 内容

(1) 公開授業・授業討議

学級	教科	単元名・教材名	授業者
1年	国語	いろいろなふね	安藤 玲子
2・3年 (複式)	算数	2年：新しい計算を考えよう 3年：はしたの大きさを表し方を考えよう	大倉 智也 細木 聡子
4・5年 (複式)	国語	4年：くらしの中の和と洋 5年：和の文化を受け継ぐ	田中 美智
6年	算数	速さの表し方を考えよう	清水 聡
ひまわり1	算数	ハロウィンマントをつくろう	廣田 理沙
ひまわり2	算数	はたしの大きさの表し方を考えよう	澤井 紀美子
ひまわり3	国語	小さい「っ」がつくことば	齋藤 世津

公開授業では、吾北小学校の全学級の授業が公開され、単式授業であっても複式の授業スタイルを取り入れ、学習リーダーの活用が図られていた。どの授業も、学習リーダーの活躍により児童主体で授業が進行され、主体的・対話的な学びが行われていた。その後の授業ごとの授業討議では、「子どもたちが見通しを持って取り組んでいたか」「学習リーダーが効果的に関わることができていたか」「教師の介入のポイント・深め方はどうだったか」の視点で意見が出され、協議を行った。参観者からは、学習リーダーがしっかりと育成されている、児童同士が意見を出し合い共学びができてい、教師の介入により学習が深まった、などの意見が出された。

(2) 研究発表

研究発表では、児童主体で進行する授業を目指して全校で授業改善に取り組んだことが報告された。全校で授業スタンダードの徹底を図るとともに、児童を信じて児童に任せ学習リーダーの育成に取り組んできた。そのことが、今回の公開授業に現れているように、児童主体の授業の実現につながったとのことであった。

(3) 講演

最後に、吾北小学校の指導に携わってきた高知県若年教員研修アドバイザー・西留安雄先生の講演「アクティブな学びを創る授業改革」が行われた。新学習指導要領は、明治維新以来の大改革であり、主体的・対話的で深い学びの実現で児童主体の授業を創って欲しいとのことであった。

環境教育部会

1, 研究テーマ 「豊かな感性を育てる環境教育」

2, 活動内容

まるごと森林学習 ～楽しく学ぶ高知家の自然環境～

① 期日 平成30年10月6日 土曜日

② 会場 高知県立森林研修センター

③ 目的 森林に親しむと共に、森林の役割や環境への関心を高め、本県における自然環境保全の大切さに気づき、自然環境や動植物に対して正しく接する態度を養う。

④ 内容日

〈午前〉 ア、樹木を知る活動「木の話・間伐体験」

・森林の働きなどについて学び、木製ハンガー制作の材料とする木を自分で選んで間伐した。ノコギリを上手に使うことで各自が気に入った枝を切った。

イ、木で工作しよう「間伐材でハンガー作り」

・書くグループごとにインストラクターの指導していただきハンガー作りにチャレンジした。親子で協力しながら思い思いの自作ハンガーを作成することができた。

〈午後〉 ア、環境音楽鑑賞「ペルーの民族楽器コンサート」

・情報交流館のホールで、オカリナ・ケーナの指導にあたる演奏家大目真一氏をゲストに招き、4名の出演者にアニメのテーマ曲や本場アンデス魅力ある音楽を古代笛・オカリナ・ケーナ・サンポーニャを使って演奏していただく。木のホールで演奏を聴いたり一緒に音を出したり踊ったりと音楽を通して心を癒すことができた。

3, 成果と課題

秋空の下、森林研修センターと隣接する雑木林をフィールドとして本イベントを開催した。昨年度から会場を変更したことで活動内容も変更したが、参加した児童や保護者にとって、間伐体験や木のハンガー作り、そしてオカリナやケーナ、サンポーニャなどの民族楽器での素晴らしい演奏の鑑賞など、親子でまるごと森林に親しむ楽しい一日となった。

「いつも何気なく見ている木や山のことを、ゆっくり見てじっくり考える機会になりました。」「1本の木にも大きい部分、小さい部分があり、よく観察して作りました。楽しかったです。」「その土地の自然のものを使った楽器で、その風土に合った音が奏でられていることを知りました。CDとは違って、目の前で見ると違った楽しみ方ができるんですね。」「身近にあるものに対して、よりよく知ろうと思いました。山や木の役割、間伐などの大切さを子どもにもわかりやすく体験できたと思います。」などの感想を頂いた。

次年度も開催を予定しているが、子どもたちが参加しやすい夏休み期間中の「海のイベント」、「ヤイロチョウの森」での体験等について検討中。参加したくなるような魅力的な内容やスタッフの確保を確実なものとし、安全面にも留意しながら高知の自然について学ぶ機会を提案したい。

平成31年2月

土佐教育研究会会員のみなさまへ

土佐教育研究会長 中田 正康

1年間の活動を終えて

会員のみなさまには、日頃より土佐研の研究・実践にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

また、各支部、専門部会におきましては、研究大会や研修会の開催など、主催者となられましたみなさまには、他にもましてご苦勞も多かったのではないかと想像するところです。重ねてお礼申し上げます。

夏の第9回研究大会では、高知支部、中部支部、西部支部から三本のレポート発表があり、どのレポートも優れた実践であり、私も参加者の一人として感動を覚えました。

この一年間の土佐研の研究・実践によって、多くの学びや気づきがあったことと思います。その学びや気づきが実践に生かされ、子どもたちの成長につながっています。

次年度は、業務改善への取り組みや課題もありますが、研究面では新学習指導要領の完全実施を踏まえ、さらなる研究・実践を進めていきましょう。

さて、前回の会報「とさ」においても、土佐研の予算面では大変厳しい旨、お知らせをいたしました。来年度予算につきましては、さらに、高知県教職員互助会からの寄付金が廃止され、一層厳しい予算編成を行わなくてはならなくなっています。

そこで、来年度からは、専門部会の配分金の削減や広報の在り方見直しを行いたいと考えています。具体的には、会報「とさ」による広報は取りやめ、ホームページにより広報を行うということです。このことは、単に、印刷費・通信運搬費の削減を図ることだけではなく、だれでも容易にアクセスできるようにすることにより、土佐研を身近に感じてもらえる効果もあるのではないかと考えています。

正式には、総会の議決が必要ですが、役員会で検討した現時点での方向性です。

今後の土佐研の運営を考えたときに、やはり、新規の会員獲得が喫緊の課題です。

前述しましたように、予算面では大変厳しい状況ではありますが、全県を網羅する土佐研のような研究組織は他にはなく、その存在意義も大変大きいものがあります。

また、退職者が多いことは否めませんが、本年度、90人の新規加入があったのも事実です。土佐研のさらなる組織拡大と、子どもたちのための研究・実践を、会員の知恵を出し合い進めていきましょう。

土 佐 第 144 号

2019年 3月発行 ・ 編集発行 土佐教育研究会 ・ 印刷 高 東 印 刷

題字 本山町立嶺北中学校 校長 大谷 俊彦
